

福島工業高等専門学校	開講年度	令和06年度(2024年度)	授業科目	環境・エネルギー工学概論
科目基礎情報				
科目番号	0116	科目区分	専門 / 選択	
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 1	
開設学科	ビジネスコミュニケーション学科	対象学年	5	
開設期	集中	週時間数		
教科書/教材	配布資料			
担当教員	酒井 清,芥川 一則			
到達目標				
①環境・エネルギー問題の現状を理解できる ②エネルギーと電気の関係がわかる ③日本のエネルギー政策及び技術を理解できる				
ルーブリック				
理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
①環境・エネルギー問題の現状を理解できる。	環境・エネルギー問題の現状を理解でき、検討できる。	環境・エネルギー問題の現状を理解できている。	環境・エネルギー問題の現状を理解できていない。	
②エネルギーと電気の関係がわかる。	エネルギーと電気の関係がわかり、応用について検討できる。	エネルギーと電気の関係がわかつている。	エネルギーと電気の関係がわかつていない。	
③日本のエネルギー政策及び技術を理解できる。	日本のエネルギー政策及び技術を理解し、議論できる。	日本のエネルギー政策及び技術を理解している。	日本のエネルギー政策及び技術を理解していない。	
学科の到達目標項目との関係				
教育方法等				
概要	地球環境問題、再生可能エネルギー、エネルギー技術に関して総合的な学習。エネルギー・環境問題の現状を正しく理解し、エネルギーと発電の関係をはじめ、世界及び日本の再生可能エネルギー政策、環境エネルギー技術まで幅広く修得する。			
授業の進め方・方法	最終的にレポートを100%とし、総合的に評価し、60点以上を合格とする。 自学自習の確認方法：課題レポートを提出させ、理解状況を確認する。			
注意点	エネルギーと環境問題について興味を持ち、自分の周りの環境・エネルギー問題、そして、ネット、新聞などで最新情報の基本的なところをまとめること。			
授業の属性・履修上の区分				
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング	<input type="checkbox"/> ICT 利用	<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業	
授業計画				
	週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	大気汚染、水汚染、放射線影響	
		2週	二酸化炭素、パリ協定書、CO2削減目標	
		3週	エネルギーとは、一次エネルギー、二次エネルギー、自然エネルギーの利用	
		4週	世界エネルギー推移、主要国のエネルギー源と消費量、エネルギー争奪戦の状況	
		5週	日本のエネルギーの消費と供給、問題解決に向けた日本のエネルギー政策	
		6週	再生可能エネルギーの導入と目標	
		7週	従来の発電方式、火力発電、水力発電	
		8週	原子力発電、従来発電の問題点	
後期	2ndQ	9週	太陽光発電（太陽電池、利用形態等）	
		10週	風力発電（洋上風力、課題、開発等）	
		11週	地熱発電、バイオマス、波力発電、潮力発電	
		12週	省エネルギー、エネルギー・ミックス	
		13週	環境エネルギー技術開発と普及、推進方策	
		14週	自然エネルギー発電と電力系統の連系、電力自由化等	
		15週	日本のエネルギー状況についての感想を述べる。	
		16週		
後期	3rdQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
後期	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		

		14週		
		15週		
		16週		

#### モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

#### 評価割合

	試験	レポート	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	100	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	100	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0